

平成 4年 8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

## 桃の話から

千ヶ瀬町にある宗建寺の山号は仙桃山といます。初めは千鳥山と称していたということですがいつの時代か、仙洞山となり江戸時代に仙桃山となりました。この時、桃と云う字が山合につきました。また、青梅1小学校の西の地域は字名を桃沢といます。そこに昔、桃沢山源上庵という寺があったといますが、ここの山号にも桃の字がついています。また、そこからさらに西の二俣尾に海禅寺という名刹がありますが、その境内に桃花碑という桃を歌った歌碑があります。「武蔵名勝図会」や「玉川源日記」「皇国地誌」には二俣尾は桃の山地であったと書かれています。ここで取れる桃は質も良く、江戸に出荷していたということです。その、江戸中期頃の春の情景を歌った桃花碑です。歌を歌った一人に中原典則の名がありますが、根岸典則のことです。この典則の父で歌人である洗雪をはじめ8名の歌がのっている「桃八仙」という当時の俳諧詩集がありますが、古くから青梅は梅とともに桃の木も愛されていたようです。

ところで青梅の永山丘陵に桜を植え、桜山にするという計画があるとのことですが、話は変わりますが、群馬のある公園で、いままで自生していた樹木を切り倒して、新しい松の木を植えた所がありました。しかし植物学の先生によると、そこには松の木を植えるにはふさわしくない土地なのだそうです。そして、今はマツクイムシの被害がひどく葉を空中散布しているとのことですが、人間にも害がある殺虫剤を散布するより、松をあきらめ、その土地にふさわしい樹木を植えたほうが良いのではないかと話でした。また、汚れた川に自然を取り戻そうということで、魚を放流することも盛んですが、放流するならその川にあった魚、もしくは以前から居た魚を増やすことが大切で、魚なら何でもいいたろうということで、特に汚れに強い鯉を放すことはあまり良いことではないと聞きました。鯉はその川に住んでいた水性昆虫や小動物、小魚を食べてしまい、かえって在来種を滅ぼしてしまう可能性があるとのことでした。

そこで桜山の話ですが、桜が青梅の土地に本当にふさわしいものなら結構なことですが、歴史的なことや将来のことを考えて青梅の地質に合う、青梅にふさわしい樹木を選んでも良いのではないかと思います。

(文責 棚橋正道)